

令和7年度 古代鏡展示館夏季スポット展示

おさな

りゅう

もんよう

幼い龍の紋様

令和7年7月17日(木)
～9月7日(日)

蟠螭紋透彫鏡 図録No.20（春秋戦国時代）より

幼い龍「螭^ち」とされる図像が表された銅鏡を紹介します。

—— 兵庫県立考古博物館 加西分館 ——
古代鏡展示館
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

〒679-0106 兵庫県加西市豊倉町飯森 1282-1
(兵庫県立フラワーセンター内)

TEL 0790-47-2212 / FAX 0790-47-2213

H P <https://www.hyogokoukohaku.jp/kodaikyou/>

ち 螭という名の龍

想像上の生物である龍はさまざまな種類があるといわれ、体の色や角、手足の有無などで分類されています。

今回とりあげる「螭」は、若く幼い黄色をした龍または角のない龍とされています。また「みずち」とも称して水に関わる神聖な生物とする解釈もあります。(『説文解字』卷十四 虫部より)

※『説文解字』: 後漢時代の2世紀前半頃に儒学者、文字学者であった許慎(きょしん)が作成したとされる最古の漢字字典



ばん ちもん 蟠螭紋

龍を表した紋様の1種で、とぐろを巻く(蟠)ような龍(螭)の姿を表します。春秋戦国時代(紀元前8～3世紀)以降の青銅器などに表現された、うねり絡み合う龍を宋時代の研究者が「螭」と解釈し呼称しました。

ところが、表現された龍には角らしい表現があり、本来に「螭」なのか判断しかねますが、現在でもその名称が便宜的に用いられています。

に じゅうたいきょう 二重体鏡

今回展示した鏡は、鏡体の背面中央に透かし彫りの紋様板を詰め込んだ鏡です。

鏡体と紋様板にそれぞれ異なる成分比率の青銅を用い、鏡背面の紋様部分が赤銅色に、鏡体の縁部分が銀色になり、色調が異なる装飾効果があったとされます。

ばん ちもんすかしぼりきょう
蟠螭紋透彫鏡 (図録 20)

春秋戦国時代(紀元前5世紀)

径 11.1 cm 重さ 265 g



蟠螭紋透彫鏡の龍の頭部

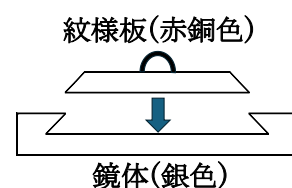
目、口の他に角らしい表現があります。



鏡体



紋様板



二重体鏡模式図

二重体鏡のしくみ(参考: 龍紋透彫鏡 図録No.19) ※現在展示していません